令和7年度 第1回しが子ども読書活動推進協議会 議事概要

日 時：令和7年7月10日（木）10：00～11：30

会 場：滋賀県庁新館4階 教育委員会室

出席者：小野田委員（会長）、鹿取委員、草間委員、橘委員、澤委員、二井委員
川副委員、和泉委員、岸村委員（代理：松島主査）、
畑委員（代理：廣田指導主事）、嘉瀬委員（代理：越出指導主事）、
濱委員、村田委員

事務局：生涯学習課 川越総括補佐、萱原主幹、浦谷主査、玉利主査、木村主任主事、
大藤指導主事、末川読書バリアフリーコーディネーター

（※傍聴：なし、取材：なし）

1 開会

○生涯学習課長挨拶

- ・第5次滋賀県子ども読書活動推進計画は、令和6年3月に策定し本年度2年目を迎えた。
- ・全公立小中学校を対象とした学校図書館活用学校訪問や、2年目となる学校図書館サポーター養成講座、学校司書を対象とする研修会や交流会などの事業を今年度実施する。
- ・すべての子どもがいつでもどこでも楽しく読書ができる環境づくりが推進されるよう、皆様からの意見や提案をいただきたい。

○事務局より

- ・設置要綱の確認 第2、第4、第6条読み上げ
- ・今年度2回開催の予定
- ・関係課7名の委員

○自己紹介

○小野田会長挨拶

- ・子どもの読書は、一冊の本を読むことがきっかけとなり、これも読んでみたら面白いとどんどん広がり学びを深めていける。本日の話し合いで、子どもの読書の広がりのように、一つの小石が投げられ広がっていくことを期待する。

2 議事

○会長より

- ・本日の議題を説明

(1)「第5次滋賀県子ども読書活動推進計画」について

○事務局より説明

- ・【概要版】を説明 資料1(1)参照

令和6年3月策定。子どもの読書活動の推進に関する法律に基づく県の計画。

令和6年度から10年度までの5年を計画期間とし、本年度は2年目になる。

基本的な考え方と重点取組事項に則って取組を進めていく。

- ・「こども としょかん」サポートセンターについて [資料1\(2\)参照](#)
学校教育との連携強化のため、今年度生涯学習課に移管した。

- ・推進状況の指標について [資料6参照](#)
学校司書を配置している学校数の割合について、括弧書き数値は生涯学習課における調査。国の調査とは外部委託を含むかという点で若干の違いがあるため、参考値で表示している。学校司書が未配置であった野洲市、甲良町でも学校司書が配置された。県内全19市町に少なくとも1名の学校司書が配置された。学校司書の重要性が浸透してきている。

(2) 令和7年度子ども読書活動推進の取組について

① 学校図書館の機能強化および取組の充実について

○ 事務局より説明

- ・学校図書館サポーター養成講座 [資料2・資料3\(1\)参照](#)
昨年度は29名が修了した。修了生の中に学校司書、図書館司書として就労した方もいる。学校図書館ボランティアとして活動する方もいる。事業の全県的な展開を目指し、今年度の会場を東近江地域に設定している。学校図書館を具体的にイメージしながら学べるようにカリキュラムを設定した。

○ 幼小中教育課より説明

- ・学校図書館連携推進事業 [資料2・資料3\(2\)参照](#)
学校図書館担当教諭（司書教諭）、学校司書、公立図書館司書の連携を強め、子どもの読書をより推進していくことを目的としている。第1回協議会は二日間午前午後で設定し、計4回実施した。県内すべての公立小中学校図書館担当教諭、市町学校図書館担当者、学校司書、公立図書館司書の総勢364名が参加した。オンラインでの実施で旅費等による参加制限がなく、広く研究を図ることができた。

- ・読書活動推進事業 [資料2参照](#)
推進協力校は近江八幡市立金田小学校、安土中学校の2校。具体的な授業の中での学校図書館の活用をとおして、課題探求型の学習を行い、子どもたちが主体的に対応できる深い学びの実現を図っていく。

○ 「こども としょかん」サポートセンターより説明

- ・司書教諭等連絡協議会 [資料2参照](#)
学校図書館の3機能を活用した授業の在り方の工夫や、学校での教育活動全般で子どもた

ちが読書に親しめる環境づくりなどについて協議を行う。

第1回協議会にて、子供の読書活動優秀実践表彰校の実践事例発表や、年間を通した学校図書館の機能の活用について協議を行った。

・学校司書研修会・交流会 資料2・資料3(3)参照

主に県内の小・中・高等学校・義務教育学校の学校図書館で学校司書として勤務している方を対象とし、専門職としての力量の向上を目指す。

第1回では、大阪国際児童文学振興財団の土居安子氏に、学校図書館における選書について教えていただいた。

・学校図書館活用学校訪問、学校図書館に係る研修の充実 資料2・資料3(4)

関係課との連携強化を図るため、今年度、県生涯学習課に移管。

今年度から、県内公立小中学校に、学校図書館活用学校訪問を実施。

令和9年度までの3年間に、県内すべての公立小中学校への訪問を行う。

県総合教育センターの「課題解決能力研修」の中に「こどもとしょかん」サポートセンター職員が講師を務める「読書活動の推進」(オンデマンド研修)を新設。新任校長研修の必須研修として位置づけ、学校図書館に係るマネジメント能力の向上を目的とする。

②子どもの読書活動を支えるひとづくりについて

○「こども としょかん」サポートセンターより説明

・子ども読書ボランティア研修会 資料2・資料4参照

読書ボランティア等の子どもの読書を支える立場の人たちが、子どもの読書活動に理解と関心を持ち、交流や連携を図れる場となることを目的とする。

第1回は、子どもの読書や読み聞かせボランティア活動関係者など、68名の参加があった。

第2回は12月、米原市にて開催予定。

③子ども・子育て世代にとって居場所となる図書館づくりについて

○県立図書館より説明 資料2参照

・パパ・ママのキャリア+育児サポートプロジェクト

子育て世代の居場所となる居心地の良いコーナーを設置。

子育てに関する書籍や乳幼児向けの絵本、さらにキャリアを一時休んでいる保護者に向けた資格の取得やリスキングに関する本を配置。

保護者が本を選んでいる間に、託児を行う取組の試行を計画している。

④乳幼児期からの読書週間の形成について

○生涯学習課より説明

・子ども読書啓発チラシの作成・配布 資料2参照

今年度も、子ども読書啓発チラシを作成し、県内関係機関に配布。

チラシには、学習情報提供システム「におねっと」上の「えほんいっぱい たのしさいっぱい」

電子データにアクセスできる二次元コードを案内している。

希望される方には冊子版の配付を行う。

○「こども としょかん」サポートセンターより説明

・多様な子どもたちの読書機会の確保 資料2 資料5参照

昨年度は、17回の施設訪問と4回の読書会を実施。

今年度はこども食堂へも取組を拡充する。

○県立図書館より説明

・お話会の開催 資料2参照

毎月1回職員がお話会を開催。

大型絵本、紙芝居、手遊び等を行っている。

(3) 質問・意見

上田委員 ・子ども読書ボランティア研修会について、参加者にはボランティア経験が長い方や浅い方がいる。これからの研修の持ち方として、経験を考慮した研修を持つ機会はあるのか。

・学校図書館活用学校訪問において、読書ボランティアとの懇談は説明にはなかったのだが、実際訪問してそのようなケースはないのか。また、これからするケースはないのか。

・ポータルサイトについて、いろいろな事例や項目にわたって情報がのせられており、県立図書館のホームページやにおねっとにはバナーがあったと思うが、それぞれの学校や各市町の公共図書館のホームページにはバナーがあるのか。どのような形で広く周知する取組をしているのか。

事務局 ・ボランティア研修会において、参加者の経験によって分けて実施することは現在予定していない。グループで活動するときの班分けの際に、目的に合わせて一緒にするほうが良いか、別々にするほうが良いか、効果的なものとなるようカリキュラムを検討していきたい。

上田委員 ・交流の場面では、ある程度経験のある者で集まった方が話はしやすく、経験が浅い人ばかりが集まった時の進め方を心配されているのだと思う。それで異なる経験年数の方を組み合わせるグループを作っているのだろうが、いろいろなやり方で行っていくことが良いと思う。

またボランティアの経験に合わせた講演の内容や、講師の選定によって分ける方

法もあるかと考える。

- 事務局 ・御意見を参考にして検討したい。
- 会長 ・最近は授業でも子どもたちに交流をさせることがある。時間が限られているので分け方は難しいが、例えば15分のうち7分と7分に分けて、グループも変えるジグソーセッションをすることもある。はじめはいろいろな経験の方で集まって話し合いを行い、後半には経験に合わせたグループで前半の話の内容をもとに交流するというようなやり方もできるのではないかと考える。
- 会長 ・学校訪問について、ボランティアとの懇談があるかということに加えて、学校側の受け止めについて、またどのようなところをポイントに指導をしているのか。
- 事務局 ・一般的な教科指導と同じ、計画指導の一つとして、今年度から学校図書館活用学校訪問を新設している。校長、司書教諭、学校司書などを対象に指導助言をしている。
- ・校長が学校図書館長であることを認識し、校内の人員配置や図書館部を作り、校内で学校図書館の機能活用に取り組んでいけるように指導・助言を行うことを目的としている。学校図書館の3機能のうちの特に学習センター機能と情報センター機能の活用を、目指す子ども像や学力向上にどのように寄与していくのかといった点の指導助言となるように心がけている。
- ・学校訪問では学校図書館視察を行い、休み時間など子どもたちが利用している様子を視察する。いくつかの学校ではその学校のボランティアの方が、それに合わせていらっしゃることもあり、いろいろと話をする機会も複数あった。
- ・ボランティアの方には、特に学校図書館の3機能のうちの読書センター機能について力添えをいただいていると感じている。季節に合わせた掲示物や子どもたちを惹きつけるレイアウト等、学校司書だけでなく校内の読書活動に携わるボランティアの力は非常に大きいものだと感じている。
- 会長 ・校長は自身が学校図書館長であることを理解されているのか。
- 事務局 ・素直に「そうだったのか」と驚かれる校長もいるが、今後の取組に前向きに考えていただいている。学校経営の中に学校図書館の効果的に生かしていこうという気持ちを持っていただいていると感じている。
- 上田委員 ・私自身が参加している何校かの学校では、そのような訪問があるということがボランティアにまでは行き渡っていなかった。今後このような機会があれば、ボランティアもどこかで参加できるよう、学校からも伝えてほしいと思う。ボランティアの間で、読み聞かせの研修がなかなか行き渡っていないことが話題になっており、学校訪問で読書ボランティアに関する研修会や、参考となるサイトの紹介などの啓蒙も行えるとよい機会になると考える。
- 橘委員 ・学校に関わっているボランティアの現状と、それを受けとめる学校側の意識が噛み合っていないのではないかと感じた。例えば、学校図書館を支えるボランティア

に届けたい研修があっても、学校を通じてその情報がボランティア一人ひとりに伝わっていない実情があるのではないか。学校図書館をこれから活性化させていこうというときに、学校側がボランティアを活かしていくために、研修などの情報があったら積極的に伝え、スキルアップしてさらに協力してほしいという振る舞いを期待するし、それにつながるような、何かしらの後押しが県や教育委員会からも欲しいのではないか。

事務局 ・「こども としょかん」ポータルサイトは令和 6 年 12 月に開設しており、記者資料提供や一般的な広報活動、県立図書館ホームページへのリンクなどを行っている。今後、市町図書館と連携し、幅広く閲覧していけるようにつながりを広げたい。

会長 ・県立図書館のお話会について、参加者があまり多くないということであるが、市町図書館では土曜日、日曜日にお話会を開催されることが多いと思う。県立図書館で第三金曜日にされている理由はあるのか。

村田委員 ・職員体制が主な理由であるが、土日、祝日のシフト制を全員で出勤する形で行っているため、人員を割いて別の場所でお話会を開くのは難しい。また、土日には公園内でもイベントがあるため、競合しない形もよいのではと考えている。

会長 ・「こども としょかん」ポータルサイトなどでも、県立図書館のお話会をアピールしていけるとよいと考える。

草間委員 ・読み語りボランティアで携わっている小学校の図書室を見学させてもらったところ、以前より環境が整い、展示が工夫されていた。教員にうかがうと、学校司書によるところの力が大きいとのことであった。残念なことに、その学校では学校司書が毎週 1 回、半年間のみしか来られないと聞いた。市町ごとの事情があるかもしれないが、やはり身近な読書環境として学校図書館は重要で、授業以外でも行きたくなる図書館づくりに、学校司書の存在は大きく関わる。市町も動かせるような力強い後押しを期待する。また先程もあったように、学校訪問において、学校にかかわる地域の者とも少しでも話ができるようにしていただきたい。

澤委員 ・昨年度実施された、学校図書館活用に関するプレ訪問では、学校のささやかな取組を認めていただけ、職員の励みになった。課題についてもしっかりと受け止めていただいた。学校司書はなかなか悩みが言いにくかったのだが、県からの訪問でたくさん悩みを聞いてもらい、安心している様子だった。学校司書の配置が市町によって差があり、ほぼ毎日いる学校もあれば、2 週間に 1 回の学校もある。そういった差も、学校訪問で市町教育委員会の学校図書館担当者も一緒に話を聞くことにより、県内の市町格差が平準化されていく一助になるのではないかと学校訪問をありがたく思っている。

・学校としてできることとして、ボランティアの研修などの案内をしっかりと伝えていくことがある。学校図書館協議会の会長としても、定期的な会議の場において、

各市町の支部長に伝えることによって、さらにボランティアの意欲を大切に、つながりを強くしていこうという話をしていきたい。

・多様な子どもたちの読書機会の確保の取組について、鑑別所や児童相談所の子どもたちにも本がいきわたるように県が取り組んでいることが素晴らしい。

鹿取委員 ・「絵の本広場」を毎年小学校行っているが、普段本や活字が苦手という子にとっても、文字のない本や写真の本などから受ける影響もある。文字を読むことだけにこだわらず、読書への入口を広げるような取組にも期待する。「絵の本広場」では、授業時間を1時間使うが、寝転んで読んでもいいし友達と一緒に読んでもいいようにしている。勉強としての読書も大切だが、勉強とは離れた形での読書もいいのではないかと考えている。本や文字が苦手な子への支援もお願いしたい。

上田委員 ・新任教員と話をすることが多いが、読書指導について全くわからない、大学でもそういう授業を受けたことがないと聞く。読書指導が学校図書館に行くだけではなく、様々な活用の仕方があることについて知る機会がないという話も聞く。例えば新任研修の中で博物館の利活用について学ぶ機会があるようだが、読書についても県立図書館に行くことや国語科指導の中での読書指導について研修があれば、新任から読書指導に関心を持って取り組んでいけるのではないかと考えるが、司書教諭以外の一般の教諭を対象にした研修の機会を持つことは難しいのか？

会 長 ・学校訪問において、研修の持ち方などに触れていることはあるか。

事務局 ・学校では教職員の年齢層の偏りがある。教職員1人ひとりの持つ読書体験が異なっているので、グループワークなどで触れ合いながら、学習指導要領等にも明記されている読書指導や学校図書館の活用について子どもたちにつけたい力をイメージした研修の場を持つことが重要であると考えます。しかしながら、学校側にそういった教職員の研修が必要だという認識があつてこそ指導助言が可能となる。まずは管理職の教員が重要性に気づけるように働きかけていく。

会 長 ・本協議会と両輪のようにある、「読書のまちづくり推進事業」が進行中であるが状況はどのようになっているのか。

事務局 ・滋賀県読書のまちづくり推進協議会が令和6年12月に設置されており、令和7年1月に第1回協議会を開催した。委員としては、本協議会の二井委員、村田委員、澤委員は共通している。他に書店商業組合や書店の社長、出版社、県中小企業支援課の者が委員に入っている。アドバイザーとして滋賀文教短期大学の有山准教授、京都精華大学の志萱教授にお願いしている。書店の減少が全国的にも問題になっているが、書店と図書館が一緒になって読書人口を広げていくことができないかという視点でつくられている協議会である。

・今年度、国庫事業の読書のまちづくり推進事業が滋賀県で採択され、事業を実施し執行しようとしている。協議会の設置には、国庫補助の獲得や幅広い意見を

反映した事業を設計し、進行していく必要があったためではあるが、書店関係者など幅広い委員の方々に事業の進捗に限らず、意見をもらいながら、子どもだけではなく、大人も含めて読書人口を増やすという視点で取り組んでいきたい。

・今年度、国庫補助事業委託が採択され、補助金を受けることができた。現在計画中の事業として、3本柱がある。

・一つ目は外輪船ミシガンを借り切って読書イベントの開催。「成瀬～」の作品で知られる宮島未奈先生に、船内で座談会を行ったり、別の部屋では本を読んでもらったり、販売をしたりして、外輪船ミシガンが丸ごと読書イベントになるような取組をしていきたい。

・二つ目は、8月から12月にかけて、県内各地で滋賀まるごと読書フェアを開催する。例えば図書館や書店、イベント会場、国スポ・障スポのおもてなし広場などでできないかと考えている。

・三つ目は、紙芝居の演劇性を活用して、演ずるものと見るものという視点で、読書人口を増やせないか、読書への入口にできないかということを考えており、創作紙芝居を作成する事業を検討している。

・現在準備中であり、未確定な部分もあるので、随時紹介していきたい。

二井委員 ・資料5のところの多様な子供たちの読書機会の確保については、「こども としょかん」サポートセンターだけではなく、みんなが作る滋賀まるごと「こども としょかん」で、誰も取りこぼさないという部分があるので、すべての子どもがいつでもどこでも楽しくという視点で、鹿取委員がおっしゃった「絵の本広場」は効果的な事業ではないかと考える。ぜひ、鑑別所などでも実践して、本を読んでいない環境で育った子どもたちへのきっかけ作り、読書への入口として活用してほしい。県内では草津市、野洲市の図書館が、「絵の本広場」を養護学校で取り組んでいる。絵本は県立図書館の協力で準備ができており、今年度からでも始めていけるとよいと考えるが、また進捗を教えてほしい。

・「こども としょかん」ポータルについては、草津図書館でもリンク付けしていなかったもので、すぐに対応していきたい。「こども としょかん」サポートセンター所長から、県内公立図書館にリンクについての依頼をしていただきたい。その後、滋賀県公共図書館協議会の理事会等で、本協議会の委員として依頼をしていきたい。

・資料6の指標について、「⑤学校司書を配置している学校数の割合」は5年ごとに行われる文部科学省の調査である。そこに括弧書きで滋賀県独自調査の結果を示されているが、外部委託者を含むか否かで定義が異なっており、同じ表内にあることには違和感がある。県が示す指標は様々なところで参考にされているため、表記の方法を見直す必要がある。

・読書のまちづくり推進協議会で会長を務めているが、事業の進捗状況について初めて聞いた。事務局が主導して進めているのかも知れないが、会長としての責

任を重く感じている。第1回協議会での意見も反映されていない部分もあることや事業の進捗がなかったことが不安に思っている。書店を助けようという目的で設置したのだが、イベントで終わってしまっているところがある。一過性のイベントに終わるのではなく、それをきっかけに書店が潤うような政策や事業を続けていけるようにしていきたい。子ども読書活動とも連動する部分が多く、書店の危機的な状況に応じて、県をあげて進めていただきたい。

会 長 ・今年度、中学校籍の学校図書館指導主事が配置された。これは非常に大きな価値があることである。ただ、子どもの対象は高校年代の子どもたちも含まれる。高校教育の学校図書館指導担当の指導主事がいてもよいかとも考える。

3 閉会

○小野田会長挨拶

・本日のお礼

○萱原主幹閉会挨拶

・協議会委員の意見等を参考にしながら、今後の事業にいかしていきたい。

・第2回協議会は、2月から3月頃に開催予定。